

## 株式会社デジタルメディアプロフェッショナル

### 第 19 回定時株主総会 質疑応答要旨

#### 【株主 A 様ご質問】

前年度実績、今年度予想を合わせ、2 期連続赤字の責任をどのように考えているのか。また、2024 年 3 月期の売上高 25 億円、営業利益 2 億円の目標に対して営業面でどのような施策を取るつもりなのか。

#### 【ご回答】

今年度予想を含めると 2 期連続の赤字ということに関して、株主の皆様にはご心配をお掛けし大変遺憾に思っております。中期経営計画に則り、来年度に黒字達成、以降も売上高を伸ばし利益を計上することによって責任を果たしてまいりたいと考えております。(大澤)

人材の獲得に加え、ヤマハ発動機様をはじめとした協業ベンダー様とのエコシステムを構築することにより、中期経営計画に則り業績の拡大を図りたいと考えております。(梅田)

#### 【株主 B 様ご質問】

安全運転支援やロボティクス分野において、FPGA を用いて開発することがひとつの特徴と考えているが、現在もその傾向は続いているのか。FPGA を OTA (Over the Air) 等で外から書き換えることを検討したことがあるか。

また、米国テスラ社が、LiDAR (レーダー) を使わず超音波センサーとカメラビジョンのみで自動運転の開発を進めていく方針とし、実際に最新モデルには LiDAR が搭載されていない中で、ビジョン方式の可能性や自動運転の技術動向についてお伺いしたい。

#### 【ご回答】

FPGA は、短期間で開発ができ、新しい技術を容易に実装できるという点で、引き続き重要な技術と考えており、AI の分野においてもシステムを構成するうえで最適な手段の一つと考えております。

OTA に関しては実際にお客様からのご要望がございましたが、OTA 実施後の信頼性の保証など課題もございます。これが解決できれば FPGA の特徴を更に生かすことができると考えております。

テスラ社の方式は、気象等様々な条件下で耐えられるかについて議論を呼んでいると認識しております。当初 LiDAR はコスト上の問題がありましたが、値段がかなり下がってきているため、今後普及していくのではないかとの見方が増えております。当社は、ステレオカメラだけでなく、単眼カメラを使用した距離測定にも注力することで、簡単なシステムによる高精度な距離推定とその先にある SLAM や自動運転を実現しております。LiDAR 方式かビジョン方式かについては、コストやお客様が要求される性能を加味しつつ、アプリケーションごとに判断していくこととなります。また、単眼カメラを含めた低コスト、高精度のソリューションについては引き続き注力し、ハイボリューム市場におけるポジションを取っていきたいと考えております。(山本)

#### 【株主 C 様ご質問】

新規の顧客獲得を能動的に行っているのか。新規顧客を獲得するような 30 代 40 代の若手の営業はいるのか。また、顧客を獲得できなかった場合にその分析を行っているのか伺いたい。

【ご回答】

例えば、安全運転支援分野に関しては、公表しているとおり、JVC ケンウッド様、デンソーテン様に当社製品・サービスをご採用いただいております。その他にも多くのドライブレコーダーのメーカー様とビジネスを進めようとしている最中であります。(大澤)

営業体制に関しては、営業職のほとんどが 30 代・40 代でございます。営業活動については、積極的にお客様とコンタクトを取り、当社製品の説明や具体的な提案を行っております。結果としてお客様に当社製品をご採用いただけなかった場合も、その要因分析を行い、次の営業活動に活かしております。(梅田)

以 上